

ノンフロンダストブロワーの種類

商品化されているノンフロンダストブロワー製品は、1) ジメチルエーテル (DME)・二酸化炭素 (CO₂) 混合ガス使用のエアゾール缶タイプ、2) 二酸化炭素 (CO₂) 使用の高圧ボンベタイプの二つに大別されます。これまで、ノンフロン化しようとすると、引火対策、高圧対策、破裂対策などの対策をとる必要があり、実用化が困難でしたが、最近ではこれらの点も改善され、グリーン購入法などにより、ノンフロンダストブロワー製品が積極的に使用されるようになっています。

ノンフロンダストブロワー製品の特徴は以下の通りです。

1) DME・CO₂ 混合ガス使用タイプ

- オゾン層破壊係数0、地球温暖化係数1未満
- 従来品と同程度の価格
- 引火防止対策として、缶内に特殊吸収体を使用し、CO₂と混合噴射することによって液化ガスの噴射を防ぎ、引火事故を防止する工夫がされている

2) CO₂ 使用タイプ(高圧ボンベタイプ)

- オゾン層破壊係数0、地球温暖化係数1
- 不燃性のため、引火の危険性が無い
- 高圧のため、温度上昇時の自然漏洩装置が搭載され、高圧ボンベを使用
- 高圧ガス保安法の適用外とするため、内容量は100ml未満
- ボンベの交換やリユースが可能

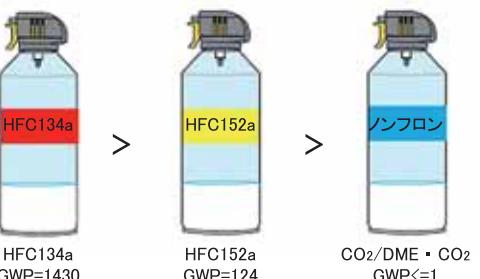
使用ガス	DME・CO ₂ 混合ガス	CO ₂
容器の形態	エアゾール2ピース缶	高圧ボンベ カートリッジ式: 取替えボンベ付
内容量	350ml	100ml未満 (高圧ガス保安法適用除外品)
缶重量 (ガスを除く)	200~250g	400~450g 250~300g
引火対策	液化ガスの噴射を防ぎ、 引火事故を防止	不燃性のため引火の危険なし
破裂対策・ 高圧対策	フロン使用製品と 同程度の圧力であり、 特別な対策は不要	高圧であり、高温時にバルブ・ボンベから ガスが自然漏洩する構造になっているほか、 缶が肉厚になっている
販売価格	フロン使用製品と同程度の価格	フロン使用製品の2~3倍

※ノンフロンダストブロワー製品は、可燃性のガスが使われていたり、
高圧のため、製品の注意書きをよく読み、正しい使い方をすることが重要です。

ノンフロンダストブロワー選択にあたっての留意点・・・・・

ノンフロンダストブロワーには、ノンフロンであることが表示され、地球温暖化係数が1のCO₂または1以下のジメチルエーテル (DME) を使っていることが明記されています。

なお、フロン類 (HFC) が使用されている製品にも「地球にやさしい」(HFCはオゾン層を破壊しないため)、「地球温暖化係数が従来比10分の1」(HFC152aの地球温暖化係数は124であり、HFC134aの約10分の1であるため)などの説明が書かれていることがあるので、



全て、オゾン層を破壊する物質を含んでいませんが、
温暖化係数(GWP)に大きな差があります。

ノンフロン製品かどうかよく確かめて購入することが必要です。

国による主な推進施策・・・・・

＜国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)＞

グリーン購入法に基づき、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」において特定調達品目ごとの判断基準と配慮事項が定められています。



ダストブロワーは、以前は代替フロン (HFC) が使用されていないことに配慮することが望ましいとされていましたが、平成20年2月の閣議決定により、代替フロンが使用されていないことが調達における判断基準となりました。平成20年4月以降は、政府機関が調達するダストブロワーは、この判断基準を満たしている必要があります。

ただし、引火の危険性があり、安全性を必要とする用途に使用する場合には適用しないとされ、また、流通在庫が市場に出回るまでの期間を考慮して平成21年3月31日までは経過措置期間であることとされています。これらの用途または期間については、オゾン層破壊物質と地球温暖化係数150以上の物質が含まれていないものを使用することとされています。

機器のメンテナンスを行う際に、地球温暖化防止の観点から、用途に応じて、ノンフロン噴射剤を使用したダストブロワー製品を選択したり、ダストブロワー以外の方法をとることが重要です。